

南那珂の普及活動 (普及活動月報)

令和7年9月
南那珂農林振興局
(南那珂農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1 第66回県畜産共進会（枝肉の部）の出品牛を決定

2日、第66回県畜産共進会枝肉の部の出品牛を選ぶための巡回が行われました。日南市および串間市の肥育農家で飼養されている候補牛の体重や体型、超音波肉質診断から審査を行い、10頭（補欠2頭）を出品牛として決定しました。地域の代表牛として、10月21日に開催される県畜産共進会に向けて、地域が一体となり準備を進めていきます。

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（基本、専門、重点）に関する普及活動

総1 地域農業の担い手確保と技術・経営管理能力向上による人材育成

1) 令和7年度南那珂アグリセミナー第10回「農業経営Ⅲ」を開催

10日、普及センターにおいて就農希望者および認定新規就農者を対象とした研修会を開催しました。

テーマは、「農業の会計・税金」として、税理士の坂本敬子先生より講義が行われました。

研修会では、農業を始めるときに必要な手続きや、青色申告を行うことのメリットなどについて説明がありました。

自分の農業経営を把握するためには、決算書の読み方を専門家から学ぶことは重要で、受講者も興味を持って聴講していました。

総 2 南那珂地域における持続可能な水田農業の実現

1) 串間市大島堰北部地区のタマネギ実証試験

1 日、串間市大島堰北部地区において、生産者及び関係機関参加のもと、タマネギの実証試験に向けたセルトレイ育苗の播種作業を行いました。

当地域では基盤整備が計画されており、将来的にタマネギの産地化に向けた検討を進めています。昨年度の課題であった育苗管理の改善を目的に、本年度は串間市の支援でスプリンクラーを導入したところ、苗は順調に生育しています。

10 月中旬には、昨年度地域で導入した半自動移植機で定植を行う予定です。今後も水稻とタマネギによる持続可能な栽培体系の確立に向けて、関係機関と連携して支援します。



苗管理の状況

2) 串間市西前地区への地域支援

18 日、串間市西前地区公民館にて、西前地区農用地利用改善団体の総代会が開催され、12 名の各地区総代、市、振興局、普及センターが参加しました。

改善団体の会長からは、あいさつの中で、地域の今後の営農について、知恵を出し合っていきたいとの発言があり、今後、地区では、主に水田の持続的な営農に向け、農地の集約化や必要な合意形成について、手法を含めて検討を進めていく予定です。



総代会の様子

3) (農)みのさきファーム理事会及びみのさき地区農用地利用改善団体役員会が開催

8 日、(農)みのさきファーム理事会及びみのさき地区農用地利用改善団体役員会が開催されました。会では、今後導入する農業機械の作業受託料金や利用料金、鳥獣被害防止対策事業の進捗状況等について、市から説明や話し合いがありました。普及センターからは、農作業等事故に関する注意喚起を行いました。

引き続き、関係機関と連携した支援を行います。

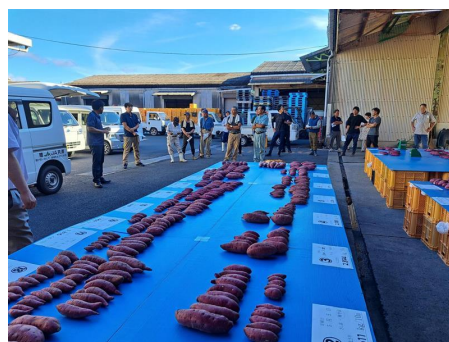
専1 産地ビジョンに基づいた食用かんしょ産地の維持

1) JAみやざき串間市大東地区本部の晩掘かんしょの品評会が開催

1日、かんしょ生産者を対象に、晩掘かんしょの収量調査並びに品評会が開催されました。

収量調査の結果では、昨年と比べやや多い傾向となっています。

普及センターからは品評会の中で講評を行うとともに、7月以降、降水量が増加したことから、基腐病の発生拡大が懸念されるため、薬剤防除と適期収穫の徹底をお願いしました。



晩掘かんしょ品評会の様子

2) JAみやざきはまゆう地区本部のかんしょ座談会が開催

10日、かんしょ生産者を対象に座談会を開催しました。

生産者17名の参加があり、普及センターからは令和7年度に実施している栽培試験の経過報告や管内の基腐病の発生状況、今後の対応等について説明しました。

また、冬期にも全体研修会を開催する予定であり、引き続き、生産者への情報提供を適宜行ってまいります。

3) サツマイモ基腐病対策試験ほの調査を実施

16日、19日、サツマイモ基腐病抵抗性品種比較試験の収量調査などを関係機関・団体参加のもと実施しました。

収量調査は10月に終了する予定としており、データがまとまりしだい冬の座談会などで生産者へ結果を共有していきます。



収量調査の様子

4) サツマイモ基腐病の発生状況調査を実施

26日に基腐病の定点調査を、串間市、JA、普及センターで行いました。本調査では、5月から毎月、管内28ほ場（うち、10件が収穫済）を巡回し、病害発生状況の確認を行っています。

これまでの調査では、基腐病が9ほ場で、茎根腐細菌病は13ほ場で発生を確認しています。発生程度としては、ほとんどのほ場が数株から1～2％程度の微発生状況であるものの、発生が拡大しているほ場も確認できたため、10月以降も注意が必要です。

本調査は、10月まで実施することとしており、引き続き関係機関と協力して、生産者に対し適期の病害対策及び早期収穫の徹底を呼びかけていきます。

専2 マーケットインを意識した産地再編による茶業経営の安定

1) JAみやざきはまゆう地区本部茶部会実績検討会が開催

18日に串間支店で実績検討会が開催されました。

今年産の取り扱い実績について、出荷数量は、前年を大幅に下回る結果となりましたが、単価については、実需者からのドリンク需要が堅調であったことから、相場が急騰し、前年より大幅に高い結果となりました。普及センターから「今後の茶園管理」について説明を行いました。茶生産を取り巻く環境が大きく変化していることから、収益性の高い茶園の見える化を行い、肥培管理の選択と集中を図っていくこととしています。

専3 10年後の産地を担う畜産経営体の育成

1) 重点対象展示ほ収量調査（飼料用稲「つきすずか」）の実施

8日、串間市にて、省力銘柄の土壤改良材を施肥した展示ほ（飼料用稲「つきすずか」）の収量調査を実施しました。今後、収量や栄養成分について慣行区との比較を行います。

引き続き、地域に適した栽培方法について調査を行うなど飼料作物の安定生産を支援してまいります。



展示ほの状況

2) いもち病抵抗性イタリアンライグラスの試験ほを設置

30日、串間市のほ場にて、農研機構九州沖縄農業研究センターと連携し、いもち病抵抗性極早生イタリアンライグラス「フユワセ」の現地実証試験ほ、及びいもち病抵抗性早生イタリアンライグラス「九州5号」の系統試験ほを設置しました。

今後、定期的な生育観測、及び収量調査を予定しています。

専4 産地ビジョンに基づいた果菜類(きゅうり・ピーマン)の生産性向上

1) きゅうり学修グループの勉強会を開催

24日、今年度1回目となる、勉強会を開催しました。

今回は、今年度作での調査内容の検討を行いました。今後、モニタリング装置の普及で環境データが確認できる状況が広がる中で、生育調査の重要性が増していくことから、今年度は生産者自ら簡単な生育調査を行うことになりました。



勉強会の様子

2) 促成ピーマン現地調査の実施

26日、日南市で遮熱対策として実施している、ドローンによる遮光剤塗布試験の圃場にてピーマンの生育調査を実施しました。20日に定植した後、順調に生育しています。

展示区(遮光剤有)の遮光率は24%程度あり、しっかり遮光できていました。

今後も定期的に調査を行っていきます。



生育調査の様子

専5 環境制御によるマンゴーの品質向上と露地かんきつの経営安定

1) 温州みかん日焼け軽減に向けた試験を実施

3日、はまゆう地区本部管内の露地温州みかん園において、果樹技術員8名の参加のもと、標記試験の調査を実施しました。

試験では、カルシウム資材散布及び摘果方法の検討による日焼け軽減効果の確認を行っており、今回は日焼け果の発生率等果実品質を調査しました。

今後、果樹技術員会で調査結果を精査し、生産者への普及を検討します。

2) J Aみやぎき串間市大東地区本部マンゴー出荷反省会及びはまゆう地区本部マンゴー学習会が開催

11及び30日、串間市大東及びはまゆう地区本部内において、標記会が開催されました。

会では、J Aから今年度産の出荷実績報告があった後、普及センターからは花芽分化期の管理と東京で実施した県産品点検の結果を説明しました。

今年産は、昨年の秋期の高温の影響で生育が後ろ倒しとなった影響で、高温による品質低下が多く見られました。今後もJ Aと連携し、出荷前進化及び品質向上に向けた支援を行います。

専6 南那珂花き産地戦略に基づいた産地育成

1) スイートピー展示ほ設置を実施

8、17日、地区営農振興協議会花き技術員でスイートピー展示ほを設置しました。

今回は高温対策を目的とした、マルチ資材の検討、バイオスティミュラント資材の検討、2度摘芯による栽培管理の検討の3試験の設置を行いました。

10月より生育・高温障害発生程度の調査を定期的に行う予定です。



展示ほ設置の様子

2 プロジェクト（基本、専門、重点）以外の普及活動

1) JAみやざきはまゆう地区本部女性部の家の光大会が開催

26日、JAみやざきはまゆう地区本部女性部（川口昌子部長）の家の光大会が開催されました。

当日は130名の部員が参加し、家の光の記事の活用に関する意見発表や講演会などが行われました。また、12月に開催されるJAみやざきでの宮崎県家の光大会に出品する手作り料理や手芸品の審査会も行われ、普及センター担当者も審査員として参加しました。

今後も引き続き活動への支援を行っていきます。



多くの会員が参加した大会

2) オクラの品種比較に係る生育調査を実施

16日及び29日に、串間市市木の2ほ場において、JA営農指導員とオクラの品種比較試験の生育調査を実施しました。試験品種は、慣行品種「ジュピター」、新品種「キャスバル」及び「MS-1380」になります。9月に入り全体的に生育はやや鈍化していますが、今後は品種ごとの時期別収量等の差異を明らかにしていく予定です。

得られた結果については、JA専門部総会で共有し、新品種導入の可能性について関係者間で協議を進めていきます。

3) 放牧予定地の電気牧柵設置の検討

16日、串間市の放牧予定地にて、電気牧柵設置場所等の検討を行いました。10月に牧柵を設置し、放牧を開始する予定です。

引き続き、放牧地造成への支援を続けてまいります。



放牧予定地の様子

4) 日南市ほおずき生産組合令和7年産実績反省会の実施

8日、組合員5名の参加のもと、標記反省会が実施されました。

J Aみやざきはまゆう地区本部からは、販売実績の報告がありました。本年は、白絹病やハダニ類等による病害虫の被害があったものの、昨年と比較し高品質なホオズキを出荷でき、販売数量も増加していました。

普及センターからは種取り作業から育苗までの栽培管理について説明を行いました。

今後も品質向上・収量安定に向けた栽培管理支援を行っていきます。



実績反省会の様子

5) 侵入警戒有害動植物の侵入調査を実施

農産物に重大な被害を与える恐れのある重要病害虫の侵入調査として、ミカンコミバエ種群とアリモドキゾウムシを対象に、フェロモントラップを用いた調査を実施しています。

2日及び19日、ミカンコミバエ種群（管内8か所）、15日及び30日にアリモドキゾウムシのフェロモントラップ（管内12か所）による誘殺数調査を行った結果、いずれも誘殺は確認されませんでした。

アリモドキゾウムシの今年度の調査は9月末で終了しましたが、今後も、南那珂地域への侵入・まん延を防止するため、定期的な調査を実施していきます

農業者、漁業者、県民の皆さまの「知りたい！伝えたい！相談したい！」にお応えします！



宮崎県農業・水産業ナビ
ひなたMAFiN
Miyazaki Agriculture and Fisheries Navigation

農業・水産業に関する

- 多様な情報をホームページでわかりやすく提供！
- タイムリーな情報をSNSなどを活用して発信！
- 皆さまの思いや意見を集約！

ひなたMAFiN

検索



メルマガ登録はこちら